

平城宮跡

宇奈多理坐高魂神社方面

昭和 32 年 4 月上旬撮影

平城宮跡はまだ国史跡ではなく、田畑になっていた。

写真撮影：福川美佐男氏



NHK 総合放送『ブラタモリ』

「奈良の発展は段差にあり」

平成 27 年 6 月 27 日放送

今回のブラタモリは「奈良の発展の秘密は段差にあり」がテーマです。

旅の始まりは、奈良時代の都 平城宮から始まる。

世界遺産の朱雀門のそばを近鉄電車が横切る。

都が京都に移転した後、50 年位すると全部田んぼになり、1000 年以上田んぼとして使われてきた。大正 3 年（1914）大阪電気軌道（近畿日本鉄道の前身）の路線が開通した。その後文化財保護に関する法律が制定され国の特別史跡に指定された。

「奈良」の地名由来は「平ら」「ならす」などから段差がないことから来ているが、平城京東部「外京」は断層による高台がありこの部分には興福寺を中心に町が発達してきた。東向商店街、親愛幼稚園、奈良基督教会、興福寺、ならまち、春日大社などを段差を求めて訪問する。

※朱雀門の側を走る近鉄電車



昭和 32 年（1957）の平城京の様子

（放映された写真）



※写真は放映されていません